

# 地震予見って何？

総ての疑問に答えられます！

雨雲NowCastのように  
地震危険予報を見られます。

1週間程前に地震の起きる模様を見られます。  
いつ・どこで・大きさ等に加えて、時間や  
地震回数等の3要素に余震等も判ります。

〈地震予知〉って**本当に**

**できるの？** はい！

〈**電磁観測網**〉さえ置けば

**1週間程前に予報可能！**

電磁(波)気の観測網さえできれば、良く判ります。ただし、50 Km以上遠くて、50 Km以上も深い場合は、震度5以下が多く確率が下がります。予知予見の「理論やメカニズム」もしっかりした内容とデータがあります。

地震予知はできないって、  
テレビで聞いたけど？

日本地震学会はたいへん困難と言い、  
有識者会議等は、正確な予報はでき  
ない、と言っています。が・・・

皆さんは、できない理由って聞いた事ありますか？  
殆どの研究が、**地震計に頼ってるから予知は無理**  
ですね。地震警報だって「後出し」なんですよ。

# 新開発予報は、确实？

いつ - 月日(時間)

どこ - 県の地方

大きさ - 震度5~7

信頼度 - 確率で75%以上

革新の技術です。観測網さえあれば**1週間前に発表できます**。電磁気や電磁波の観測が最も正解で、确实な予報となります。余裕を持って安全に避難できるのです。これらは、昨年各学会で地震予知の理論とメカニズムを発表した実績が有ります。

地震予見って、どうして出来るの？ = 地表で電磁気を観測すれば地殻変動が判ります。

観測中の電磁波は、地殻異常通りに発生していました。

地下深くで、ズレや歪等が生まれた時に、同時に、(その通りに)電磁波やノイズが発生していたのです。

従って、電磁波の変化を調べれば、ズレ等が発生した模様が、全く同じように再現できる事になります。

# 予見ができる根拠は？ 地殻変動での電磁波等々を EarthAntennaで捕捉します

観測する電磁波は、地殻異常通りに発生していました。

地下深くで、ズレや歪等々が発生した時に、全く、軋轢通りの電磁波やノイズが発生していたのです。

従って、電磁波の変化を捉え、観測を表示すればズレ等が発生した模様が、完全に再現できる事になります。

# 地震って、何故、長く続くの？

○ K庁等では、説明がありません。が  
**答え** = 軋轢が、次々に上層部に届いたら、  
破壊が連続し、振動による触発や反射  
等の地震動が輻輳し何分も揺れが続く

**説明** 大地震は揺れが数分間も続きますが、これは、地震動の元となるズレや軋轢が広範囲なため、地表での破壊活動が長く続き、地震動や揺れの反射動が重なるため長く続きます。（これはトラフや直下もほぼ同じです）

追加 ここまで解説した記述はありません。理論やメカニズムが判らないからです。

# 断層はどうしてできるの？

震源のズレ等に断層模様があったり地震動の時に、元々蓄積された岩盤や地表の歪があれば断層となります。

正断層と逆断層に横ずれ断層等があります。突き合ったり、離れたり、ズレたりしますが電波等の観測にも表れており、予測可能です。

追加 電磁観測では正逆や横ずれ軋転が起きた段階で判りますよ。

# 地震は、地下深くで起きるの？

- 1 K庁の発表では、数十kmの深層で起きた等の推定発表がたくさんありますが、 . . .
- 2 それは無理 = 深層は超高压状態であり少々ズレが起きても、直ちに、周囲を破壊し地上迄破壊や亀裂を拡大するPowerはありません。
- 3 地震発生時に電磁界異常はパルスのみです。

プレートが滑り込む時のズレで起きる地震は別に、地下500Kmで地震が起きた等々高熱の発表が、このあたりは地殻自体がマグマ状態であり、超高温で、現在の震源は、地震動の時間的広がりを深さを、推定したもので、確かめられた物ではありません。

# 電磁前兆と地震動は同一原因の現象？

- 1 K庁 電磁的観測はしていないので判らない。
- 2 地震動はPS波で3.5~7 Km/秒で伝わるが、地震数秒前に電磁前兆は無く、反対に1週間前での電磁前兆時には、地震動は起きていません。

**解説** 実は①地震が起きた時には、激しい地震動や断層等ができますが、前兆時のような電磁波や電磁界変化は少なく、ノイズとパルスが観測されているだけです。

②反対に、前兆が観測された時には、地震動が起きていないのです。この事から、

**現象** 電磁的異常（前兆）が観測されてから、地震が起きる迄の現象を纏めると、

①地震のズレや軋轢が起きて、前兆が観測された時には、地震動は起きていない。

②震源軋轢の変動が、地表に近付いた時期に、地震破壊や地震動が起きています。

③**結果**として、地震前兆が出てから数日から約2週間後に地震が起きる原因は「軋轢伝導が1日に数km/dayの速度」と、地震発生迄の計算が合致し、経験則も有効です。



南海トラフ等のプレート型地震と、全国各地で起きる直下型地震は、地震の起因が異なります（トラフはズレ、深さ、揺れ等相違）

従って、観測要領も違うので、確実に予見するには、相応の観測網が必要です。

主な観測方法は3種類で、水平方向のFM電磁波観測網、広域の短波帯観測網、直下観測用のアース観測網です。地震計(300万~2000万円)より格安で先端電磁観測網ができますが、海洋は現海洋観測網に加えれば格安です。

早く、予見を確実にする為には  
自分で、観測網を作るしか方法  
は有りません。 **大災害は待ってく**  
**れません。** **早い方が安心**できます。

国等にその気が無いので、自分の命は自分で守るしか方法はありません。従って、当研は、各市の観測点は各市の皆さんに協力をお願いしています。機械本体が1基で30万円ほど掛かりますが、各市でどなたか、寄付して戴ける方の申し出をお待ちしています。

# 各市に世話人1人と、30万円の観測機器製作費用が必要です。

普通の地震計では、1基300万円~2,000万円もします。当該観測機は先端技術機器を超格安で設計しています。また、統合センターも必要なので皆Volunteerで頑張っています。必要なシステムですが寄付でしかできません。

お願いばかりですが、私達は、研究開発で小遣いも削っています。もう、25年も自費で研究していますから・・・

寄付は、大分銀行 027国東支店 普通 5162248

JYAN研究会 会長 國廣秀光宛(0978-72-2643)に願います。

敷設費用が集まって観測点ができた  
所から危険予報を送る事ができます。  
30万円（電磁観測装置）の契約時から  
6年間情報を継続します。その後は  
Vup<システム>になる予定です。

情報は<DangerNews & 地象予見研究所>が送  
ります。寄付が集まれば、早く、正しい、地象  
の危険情報が送れます。宜しくお願いします。

電磁波と地震研究で50年 **JYAN研** 國廣秀光